

URBAN HOME HEARTS

都心の住まいをデザインする

「都心回帰」が始まって10年以上が経つ。利便性が再評価されている傾向だが、一方で都心の住宅には課題も多い。面積を確保しにくく、狭いエリアに住宅が密集すると騒音や隣家との視線の交差、採光を確保しにくいといった問題が生じる。対策として外部に閉じ、トップライトや中庭を活用する方法が有効だ。外観と開口部の計画をポイントに、構造とプランを工夫した2つの住まいを紹介。

地下の中庭を囲む3層のフロア

K Residence Tokyo

Architecture : 矢板建築設計研究所

Photographs : Nacása & Partners Text : Masayoshi Inoue

ルーフトデッキから中庭に開放的な3層の居室を眺める。外部の吹き抜けに囲まれた地下1階から地上2階までの3層は、フロアごとに異なる趣がある。地下1階と地上1階のRC造の上に、アルミ製外付けブラインドを下ろしたりリビング&ダイニングキッチンの鉄骨プレース構造の躯体が載る湿構造。2階の内壁と同じキーストーンプレートが建物の外周にまで伸び、インダストリアルな質感をデザインにとり入れている。2階は斬新な鉄骨構造にすることで、室内空間を最大限に広くなり、RC造の1階と2階の間に通気層を設けて軽やかさをもたらした。大開口のある2階とは対照的に、1階はコンクリートの重厚感を生かした設計。開口部は中央の和室だけに絞り、ソリッドな質感が吹き抜け空間を引き締めている。地下の部屋から漏れる明かりに心が和み、正面に見える1階エントランスから階段へと導くムーブメントが豊かな空間を予感させる



地下の中庭から南側の階段室を見る。階段室は、地下1階から上方ヘイナミックに伸び、強調された遠近感が空間のボリュームを際立たせている。4つの階段は、下から順に勾配25度、42度、24度、40度と変化した5つのレベルをつなぐ。階段の地下左手の書斎は、幅2970mmピッチで並ぶガラス引き戸(H2160mm)で中庭につながる。右手のバスルームや洗面室とも連続性を持たせ、最もプライベートな場所にしつらえた。階段室は大ガラス(W1980mm×H4850mm)で中庭と仕切り、透過性を生かして視覚的に開放しながら物理的に閉じ、空間の独立性を共存させている。左手の上層は和室の前の廊下。右手の上層はルーフトデッキ



地下1階西側の棟の中庭から見る。右手のバスルームと左手の洗面室(共にCH2335mm)は、中庭側に広いガラス窓(各W2970mm×H2335mm)を設置し、ゆったりした開放感を味わえる空間に。開口内部には木製ブラインドを取り付けた。シャワー水栓、バス水栓、洗面水栓は、光沢が美しいドイツ・DORNBRACHT(ドンブラハ)を採用。バススタブはJaxsonの「Aperta」。水まわりの床と壁は大理石石ヒヤンコカララのモザイクタイル貼り。バススタブ脇にはLE CORBUSIERの版面を飾った。床スラブの下部に高さ125mmの抜けをつくり、LEDの間接照明を設置している。中庭の床はチーク材のウッドデッキ貼り。シンボルリーのヒメジャラが自然のイメージを増幅させる。「地下のアウトドア空間」には開放感と共に包まれた安心感があり、心を解放するプライベートな野外空間だ

都内の住宅街に立つK邸。その外観は、シンプルな箱型の2階建てのように見える。前面道路側のファサードには窓はなく、モノトーンの控えめな配色やサイエによって、建築物としての存在感を抑えた。外部に対して目立たせないことでセキユリティー性を高め、内部の静けさを確保している。

プライベートを重視しながらも、内部は豊かな空間をつくるために、オーナードと設計者の矢張久明さん、直子さんは、試行錯誤を繰り返しながら暮らし方の理想を追求、いくつもの案が生まれたなかで、「PATIO(中庭)」と名付けられたこの住まいのかたちになり着いた。

建築物は地下1階、地上2階から成る。「外に閉じながら、内部は開放的にしたい」という要望を突き詰めた結果、地下に中庭を設けることに。1階のエントランスホールから一面ガラス張りの階段室に出ると、眺めはダイナミックに一変し、中庭空間が視界の上下左右に広がる。2階まで伸びる大面積のガラス越しに階下を見下ろすと、南北に長い中庭に沿って全部屋が並び、視線を上上げた、ルーフトップ上部に浮かぶように渡された鉄骨のフリップが存在感を放つ。一段上るたび景色を変える階段の先には、鋼板に縁取られたヒンジ&ダイニングが現れ、その真下には地下の中庭を見下ろすことができる。人間の視線は水平方向と足元の下方方向に注意方向の広がりを感じやすい。階間と地下に計画した中庭の組み合わせは、数値以上に心地良い広がりを感じさせる。

プランニングは各階の位置づけを明確にし、パブリックラベットの分割。1階は茶室を兼ねた和室と、中庭越しにルーフトップを設けた。エントランスホールと車庫の間に記した和室では、妻が茶道や季節のしつらえを楽しみ、日常的にくらぶるの時間を過ごす。2階はリビング&ダイニングとオープンキッチンを一つの空間に集め、ゲストを迎えるパブリックな場に。一方、プライベートな機能を集約した地階は、東側に書斎と隣接する寝室、対面する西側にバスルームや洗面室など水まわりと、中庭の間隔に一列に記した。機能的なプランであると同時に



に、スペースを両側に振り分けたことで、西側からは中庭と3層の居住空間を見渡すことができ、3層地下でありながら開放感を味わえる。

3層のプロアを機能別にゾーニングすることにより、露骨のバリエーションも豊かになった。視点をわずかに移すだけで、室内と窓によって切り取られる風景が変化し、さまざま表情を見せる。特にリビング&ダイニングは、窓に近づくと視界が大きく開け、窓際立つと浮いているような感覚さえ覚える。ソファに座れば、ワイドな開口に縁取られた大空が広がり、刻々と移ろう優しい陽の光が室内を包み込む。地下の寝室や書斎は外部に対する遮音性が高く、強い風や極端な気温の変化を緩和するメリットがある。吹き抜けの開放感と包まれる安定感で、地下でありながら居心地の良い空間となった。

外部に閉じながら採光と通風を確保するため、リビングの東側と南側の2カ所に電動で開閉する建具を設け、片開きで開く建具は壁面と同素材で、隙間をわずかに開けるだけで風の流れが生まれる。建具を閉じると、室内外とも壁面と一体化する巧みなデザインだ。中庭に面したリビングのF1X窓の下部には通気窓を設けた。キッチンにはトップライトを採用して柔らかな光をとら込み、外部の視線を遮りながら明るい空間をかえた。

オーナー夫妻は「住まいは長く生活し続ける器」と考え、建築は「さまざまなしつらになじむ、突き詰めたニュートラルな空間」を目指した。先にソファやテーブルなどの大きさを決めてからリビングの大きさを導いたように、ユーティリティケールで計画を進め、インテリアから建築的なディテールまで、統一したスタイルを実現した。

上質な内部空間を実現するため、地階と1階のRC造の上は、2階のS造で載る混構造を採用。2階の外壁は2枚のキーストンプレート液状の弾力型断熱材に断熱性の高い木質建材を配置し、外壁との間に通気層を確保してダブルスキントした。さらに屋根上はH鋼の構造梁を露すユニットを構造は、シンプルでフラットな床壁天井を実現し、美しいインテリアを見せるために導かれたものだ。「PAIRO」という名のK邸は、理想を求めた物語に満ちている。

右上/ピアンコカララのモザイクタイル貼りの洗面室は、ドイツ・DURAVITの洗面器をダブルシンクで設置し、2人が同時に使えるよう配慮した。ガラス製の洗面カウンター(W2877mm×D600mm×H757mm)は清潔感とシンプルな美しさがあり、ガラス越しに中庭との一体感も味わえる。上部にミラー貼りの吊り戸棚を設け、最上部には空調の吹き出し口を収めた。正面奥右手はユーティリティ、右下/エントランスホールから階段を降りると、地下1階の書斎入り口に連じる。ウォールナット材の造作引き戸(W915mm×H2160mm)のプロポジションに合わせて特注のハンドルを設置。階段は660mm、280mm、395mm、280mmと4種の異なる踏み板を使い、中庭の景観を楽しむアプロークの空間とした。左/地下1階の書斎(CH2160mm)の中心は造作デスク(W3000mm×D750mm×H700mm)。オーナー夫妻が坐って仕事ができる幅広いサイズをリクエストした。天板は質感に優れるウォールナット材。デスクに向かって中庭を眺望でき、開放感と静けさ、包み込まれる安心感が心地良い。デスク後方の壁には、パーチ種層合板にSUSフレームを合わせた書棚を造作。裏はウォークスルーローゼットで、作業動線にも配慮した快適な書斎だ。床はチーク材フローリング貼りの。正面の厚さ300mmのコンクリート打ち放しの耐力壁の奥が主寝室



右頁ノ中2階西側のルーフデッキから南東の階段スペースを見る。屋内のアプローチに当たる正面の1階エントランスホールから階段を上り、折り返すと左上の2階のリビング&ダイニングキッチンへの入り口に通じる。階段は建築の重要なエレメントだが、K邸は鉄骨造の2階と、RC造の1階と地下に質感や量感など基本的な差異があり、階段は互いをデザイン的につなぐポイントでもある。スチール製の細い手すりと踏み面の厚みや幅を突き詰めてシンプルな階段に仕上げた。外付けのブラインドを下ろした2階の居室は中庭側の全面を開口とし、ルーフデッキと視線が交差する。微妙な視点の変化をデザインした上ノK邸の和室(CH2160mm)は、茶会を催せる本格的な茶室。茶道の「大広間(6畳)」の様式を現代的にアレンジし、床の間の床柱も省略したシンプルな造りだ。基本となる炉を切り、天井は土佐紙の手漉き和紙を貼り、壁は左官仕上げにするなど伝統素材を駆使した。和室入り口右手前の壁収納に水屋を設け、その奥に和服の収納スペースを配して和紙の積で6畳の和室と仕切った。下ノ和室から中庭の吹き抜けと対岸の中2階ルーフデッキを眺める。RC造の和室は壁厚280mm、障子や網戸(W1836mm×H2151mm)は壁内にすべて引き込める。木製サッシ(W1900×H2258mm)は特注



夫妻は会話や互いの気配を感じられることを大切に各室の計画を立てた。アムスタイルのオーダーキッチン(W3660mm×D900mm×H900mm)は食事や来客の際にも便利なアイランド型。カウンタートップは6mm厚のステンレスハイブレーション仕上げ。キッチン水栓はドイツ・GROHEの「Minta 3216800J」、レンジトップはリンナイの「RD312G11S」、レンジフードはイタリア・FABERの「CYLINDRA-ISOLA」。天井を460mm膨り込み、トップライト(W3785mm×H390mm)を設けて明るいキッチンに。奥には妻の作業用デスクを配した。正面はキーストーン鋼板の壁に電動制御で開閉する建具を設置。左手に当たる東側ファサードは開口がないため、2階の2カ所に電動建具を設置して通風を確保。建具を閉じると壁面と一体化するデザイン



上/2階ダイニング南側から奥のリビングと一体の空間(CH2440mm)を見る。オーナーの希望で、ダイニングは横幅3mの大型テーブルが置けるスペースを確保した。パーチ横層合板に鏡面仕上げのステンレス製脚部を合わせた特注テーブルは、8人がゆったり座って食事できるサイズ。イタリア・B&B Italiaのダイニングチェア「VOL AU VENT」を合わせた。設計に際し、必要な家具や家電が置けるスペースを振り出して室内の広さを決定。リビング&ダイニングキッチンは40畳(約66㎡)のワンルームで、キーストーンプレートの内腔が同じ高さで連続し空間の一体感を得られるよう、鉄骨ブレース構造と屋根上にH鋼構造の逆梁を渡す大胆な設計。左手の西日が差し込む大開口のFIX窓の下部に通気量を配置。外側には角度調整可能なアルミ製電動横引きブラインドを取り付け、床はコンクリート研ぎ出し仕上げ。ダイニングキッチンには山田照明の口径が小さいダウンライト「DE-2995」(φ83×H94・ハロゲン球12W/50W)を採用。下/リビングのソファはB&B Italiaの「CHARLES」(W2300mm×D970mm×H730mm/SH420mm)。足を伸ばして横になれるような幅広サイズのものを2台置き、特注テーブルは天板にピアノコララ、脚部にはステンレスフラットバー鏡面仕上げを使用。窓側に薪ストーブをしつらえ、両脇にイタリア・O LUCEのスタンドライト「Dim333」を置いた。壁の構造材の変心プレスを意匠にとり込んでいる



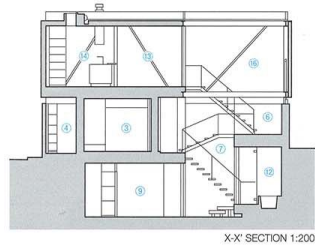
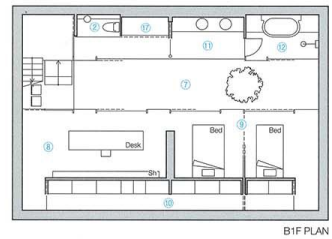
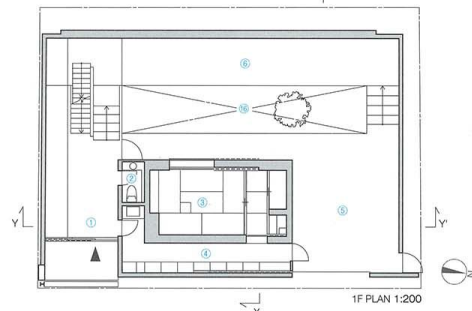
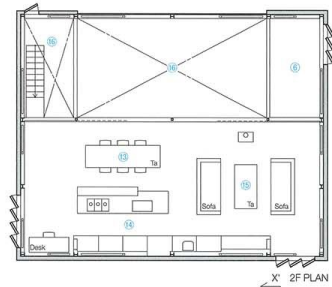
K邸の東側ファサード。最高高さは約5.8mに抑え、前面道路に面した2階部分は幅約11.9mと横長で控えめなデザインだ。1階の左端は玄関ポーチで、ニヤト一材の厚板な3枚引き戸(各W1085mm×H1988mm)を設置している。シンプルな外観だが、RC造の1階と鉄骨キーストンプレート構造の2階の間には、支柱でわずかに持ち上げた形で軽やかな抜けをつくった。コンクリートの箱の上に鉄の箱が浮かぶイメージ

DATA

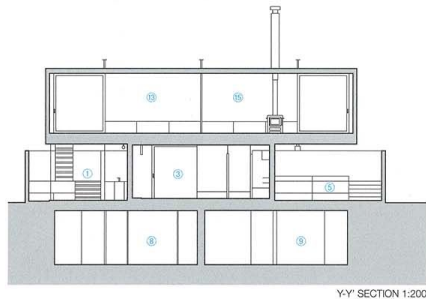
構造と規模/RC造 一部S造 地下1階 地上2階建て
敷地面積/172.19㎡ 建築面積/79.41㎡
床面積/地下1階81.45㎡ 1階73.76㎡ 2階71.65㎡ 合計226.86㎡
家族構成/夫(40代) 妻(40代)

※設計データは238頁に掲載

- ①ENTRANCE
- ②TOILET
- ③JAPANESE STYLE ROOM
- ④DIRT FLOOR
- ⑤GARAGE
- ⑥ROOF DECK
- ⑦PATIO
- ⑧STUDY ROOM
- ⑨BEDROOM
- ⑩CLOSET
- ⑪DRESSING ROOM
- ⑫BATHROOM
- ⑬DINING
- ⑭KITCHEN
- ⑮LIVING
- ⑯VOID
- ⑰UTILITY



X-X' SECTION 1:200



Y-Y' SECTION 1:200

道路に面した東側は、階段は外から屋内が見えないデザインだが、開口部を全開するとダイナミックに開放される。鉄骨造の2階の電動建具は最大48.7度開き、隙間から屋内のリビングが垣間見える。2階の外壁構造は、内側と外側の2枚のキーストンプレート(波状の幅広鋼板)に「断熱OSDが内側」という断熱性の高い不燃素材を敷設し、外側との間に通気層を取るダブルスキンを採用。キーストンプレートの即座を生かした開口建具は、構造を参照にするクレーティブな設計。RC造の1階がレージの扉を開けると、吹き抜け越しにルーフィングが見える



high end design and lifestyle

隔月刊 アイムホーム 1・3・5・7・9・11月の各16日発売

l'm home.

no.60
記念企画
建築家リスト

Smart Home Advance

FLEXFORM
PIET BOON

URBAN HOME HEARTS

都心の住まいをデザインする

Ever Interior Coordinate

素材と色が奏でるインテリア

2012

NOVEMBER, no.60

www.imhome-style.com